

A Newsletter of the Tokyo Branch of the Royal Scottish Country Dance Society

Editor: Shigeko Igarashi, 5-10-5-103, Kitamachi, Warabi-shi, 335-0001 Tel/Fax 048-445-1527

東京ブランチ 2008 年次総会

日 時 2008 年 6 月 7 日 (土) 13:30~16:30
 場 所 三田福祉会館 集会室 C
 交 通 JR 田町駅 西口から徒歩 8 分 または
 地下鉄三田線・浅草線 三田 A9 出入口から徒歩 1 分

Social Dance

総会后、別の会場で行います

時 間 18:20~20:45
 場 所 港勤労福祉会館 3階サークル室

総会参加者は、無料です。

午後の総会から夜のダンスまで大勢の会員のご参加をお待ちしております。

Program

The Wild Geese	J32	BK 24	Linton Ploughman	J32	BK 5
The College Hornpipe	R32	BK 20	Clutha	R48	BK 31
Dalkeith's Strathspey	S32	BK 9	Land O' Cakes	S32	BK 29
Old Nick's Lumber Room	J32	BK 26	Alan J Smith	J32	BK 45
Autumn in Appin	S32	BK 31	The Lea Rig	S32	BK 21
The Deil Amang the Tailors	R32	BK 14	Catch the Wind	R32	BK 45

Ex. The Montgomeries' Rant R32 ・ Miss Gibson's Strathspey

Weekend Camp 2008 報告

2月22日～24日 埼玉県国立女性教育会館で100名以上の参加者が有意義な時間を過ごしました。ロバート・マッコーエンは、高い身長で全員の動きを常に把握し長い脚をフルに使って正確にステップを見せる指導は言葉の支障など感じさせないものでした。それには、バーバラのミュージシャンとしての協力も見逃せない要素と思います。

1、指導したダンス名 2、アンケートの要約 3、寄せられた感想をお知らせします。

1. 取り上げられたダンス

Teacher's Skill Class 2月22日～23日

Hey! Jenny Come Down to Jock	J/24	BK 3
Queen's Welcome	R/32	BK 4
Jenny's Bawbee	S/24	BK 5
Lady Susan Stewart's Reel	R/32	BK 5
Keppoch's Rant	S/32	BK 17
Haymaking	R/40	1965
Mrs. Garthland's Strathspey	S/32	1965
Arglle's Bowling Green	R/32	BK 15

Weekend Class 2月23日～24日

The Fyket	J/40	1965
Hame Came Our Gudeman	S/32	BK 30
Miss Flora's Favourite	R/32	Gr
A Spring Breeze	S/32	Obata
Little Ross Light	J/32	Drewry
Back to Back	J/32	# 1
Linnea's Strathspey	S/32	# 2
Burns Night	J/32	# 3
Eileen Watt's Reel	R/32	Magn1

#1 Antch to Dance

#2 Dunsmuir Dances

#3 Boston Branch Fifty Years of Dancing

2. アンケートの要約

		良い	普通	良くない
1	Classについて	79	21	
2	Teachingについて	92	8	
3	Musicについて	91	9	
4	スケジュールの時間配分について	45	43	12
5	Social Dancing について	52	43	5
6	Social Dancing の音楽について	76	15	9
7	宿泊施設について	57	32	11
8	Weekend Class の開催時期	35	51	14
9	開催場所	38	42	20
10	参加者はフレンドリーでしたか	91	9	
11	総体的な感想	68	32	

3. ご意見、ご希望など

Weekend Class は時間が短くて物足りなかった

体育館が寒かった

通訳がよく、動きやすかった

クラスの内容が良かった

指導はとても勉強になった

Social Dancing の場所が狭かった

会場の準備や後片付けが大変だった

部屋の鍵管理が大変だった

浴場の終了時間が早くて困った

クラスの移動が大変だった

全体の詳しいスケジュールとクラスの場所がはっきりしなかった

友達が出来てよかった

参加者が手伝えることは、やらせて欲しかった

素晴らしいミュージシャン揃いで音楽も楽しむことが出来た

とても楽しく勉強になった合宿だった

Teacher's Skill Class は大変有意義であった

ひごろ踊ることが少ないダンスを再認識させてもらえた

考えて答えを出させる方法が面白かった

複数のやり方でどちらでも良いというコメントはよかった

自分と違う解釈法を考えてみる良い機会であった

受講生の態度が未熟、初歩的な間違いが多いのは恥ずかしかった

4. 参加者の感想

スキルコースに出席して

田村 妙子

前回のアンデックスの時は 2 人ペアになって、お互いのステップを見てコメントをする。オブザベーションの大切さの確認でした。それをどう直すかの指導は無かったと思います

金曜午後のクラスは彼にしては精細さがかけていたと思いました。普段あまり踊らないダンスを指導しましたが、あまり細かい注意はせずに、「何か質問ないか？」と時間を取っていました。

”Lady Susan Stewart’s Reel“ Hello Good・by setting のから face 1stcorner に移動する時の step は Pas de basque ですか？ Skip change of step ですか？ パスをするのは右肩、左肩どちらでしょうか？ の質問でちょっと驚きました。

他にも 2～3 質問がありましたが分かり切った事ばかりの感がありました。

「明日までの宿題です。質問を考えてくるように」で金曜クラスは終了。翌日はシャキッとしたロバートになって精力的にクラスを進めていました。 Hay Making (1965-Leaf)

Bar5 1st man と 2nd Cple の three hands round から Across の Reel of 4 にすると良いと分かりました。2nd cple が背中合わせで始まった Reel of 4 の finish をロバートは何も言わず、変な戻り方をしていた所もあったようです。指導者だったら分かっているはずと黙っていたのかしら。Bar24 の時少し中に入って XR しても OK といったが、

「イヤ bar24 は on the side」と云う人あり、「許すと際限なく中に入り込む」と云う意見あり、帰宅後 BK で確認 bar17~28 まで、まとめて記載されていたのでロバートの方法でいいのだろうと思いました。Formaation とのつなぎ目の大切さの確認。

Skip change of step から Slip step への入り方は、左足に右足クローズで Slip step に入る。或いは Skip change of step の流れを止めずにそのまま Slip step に移行する。(以前 Derek Haynes に教わった) クラスの対象によって指導法がチョイス出来るとか。私達は通常 CD かテープの音を聞いて Ready..And のキューをだしています。ミュージシャンが居るときは、five six Ready and を出すこと。それをリズムカルに弾き手に伝えることが大切。以前小海さんが「小幡さんの Ready and が一番は入り易いのよね」と話していたのを思い出しました。ミュージシャンはそのリズムで音の速さを理解するのだと。普段やり慣れていないので難しいと思いました。

以前ロバートのステップダンスクラスに出席した時、くどい程バーバラとリズムの打ち合わせをしていました。ちゃんとバーバラの顔を見て、five six Ready

and を云っていたのも思い出されました。ご夫妻でいつも一緒に行動していても、リズム、タイミングを必ず打ち合わせをすることが大事！
スタッフの一人がティチャーと云っても結構差がありますね。と一寸嘆くように話されていたのが印象的でした。経験年数、教えるだけで自分が楽しんで踊る場がない、他のティチャーの指導を見る機会が少ない等の問題があると思います。ブランチの合宿で勉強出来るのは幸せなことですね
終わりにスタッフの献身的な働きでクラスが成り立っています。あれもこれもと裏方の雑用は多く有りましようが、少し交替して夜のパーティー（金曜）を踊る笑顔を見たかったと思いました。お蔭様で、感謝いたします。

Weekend 初参加

平本佳代子

2月23・24日 Weekend2008 に初めて参加しました。
私は、不安と緊張を抱き、どんな所なのかと期待に胸を膨らませての参加でした。
最初のクラスが凍えるような体育館。しかし講師のロバート、フィドラーのバーバラ・マッコウエンご夫妻の笑顔、参加された方々の温かい笑顔に助けられ、踊りを楽しむことができました。
また講師の方々の分かりやすい指導、美しいステップ、ダンスをより楽しいものにしてくれる楽器とともに踊りをいっそう楽しくさせてくれました。
夜に行われたソーシャルダンスはクラスとは違い、和やかな雰囲気です。
楽しみました。懇親会ではおつまみのテーブルを囲み、どのテーブルも話し声・笑い声が途切れることなく盛り上がっていました。私は今回の参加で素晴らしいお仲間巡りに巡り会えたことが一番嬉しく思いました。

テーマを持つての参加・・・結果は？

細海 修

『寒かった』このことはまず置き会場到着。早々に講師を予定されていた方のご家庭に緊急事態が生じたので急遽お帰りになる由、代役となるティーチャーが後を引き継いでレッスン開始。私の所属したA班では代わったティーチャーで、何時もの元気な声掛けでスタート。

今回は2回目の受講で1回目の時は合宿とはどのようなものか所詮様子見でしたが、今回は2～3テーマを考えての参加でした。
基本ステップから入り数曲レッスンを受け、まずまずのスベリ出し。音は勿論生でミュージシャンの方達も顔見知りです。楽しい雰囲気でした。終わって会場変

更となり外へ出ると吹雪状態、次の会場では体も冷えていたので怪我をしないように慎重にウォーミングアップ、講師はロバート・マッコーエン氏。素敵な立ち姿から正確なステップ、今回は姿勢をテーマの1つに考えていたので大変勉強になりました。また演奏もMCとの呼吸も勿論バッチリでダンサーの様子を見ながら楽しく踊りやすい演奏をしてもらいました。

会館職員によるレクチャーは国立女性教育会館の名称からしてその設立主旨・目的があると思いましたが、話があちら、こちらに飛んで私には充分理解出来なかったのは残念。

1日目の締めくくりは **Social・Dance** 全12曲チャレンジ大変盛り上がった時間を持つことが出来ました。ただ、終了後私も含めて数名で会場の後方付けを手伝い、次の懇親会に行った時はすでに会は始まっていて満席状態。立ち飲み「まあ・いいか・・・」

ビール好きの私は少々物足りなく、又2次会有りの情報でビールを自販機で購入して〇〇さんの部屋へ集合。さらに数名で意見交換？を行い充実した1日目は終了致しました。

2日目は合同クラスで全員体育館へ、ある状態の箇所に数名が静かに佇んでいました（陽光あり）やはり多人数で行うレッスンは活気がありました。入念なウォーミングアップの後セットを構成、今日はテーマの1つパディバスクをしっかり踏むよう心掛ける。3つ目のテーマは余裕なくパスとしました。合宿が終わり暫くするとテーマとしていた処は全て元の黙阿弥、相も変らぬ状態です。

最後にまとめとしての印象は、全体的にインフォメーションが少なく感じられ又参加メンバーにダンス歴からかバラツキがあったように感じられました。合宿は会場選定にしても100名のメンバーが宿泊でき、踊れる場所があり、参加費があまり負担にならない等々考えると大変難しい。今回の会場は都心よりさほど遠くなく緑豊かで春・夏・秋のシーズンは高い利用率と思います。ブランチ合宿はたまたま2月開催出来たのではと思います。初めての会場での合宿、スタッフの皆様のご苦労にお礼申し上げます。来年も自分なりの何かテーマを持って参加し又皆様と交友を深めたいと思っております。ありがとうございました。

熱意のこもった指導

フィドラー小谷野千枝子

ありがとうバーバラ！とても素晴らしいミュージッククラスでした。
今回の参加者数はフィドルがピアノを越えました。

バーバラはきめ細かく惜しめない熱心な指導でした。各楽器毎に個人個人に沢山のアドバイスがあり、耳で聞き一曲を仕上げるのに長い時間が必要でした。少ない時間で夜のパーティーに向けみんなを励まし時間外のクラスを設け指導をしてくれました。

出来映えは、如何でしたでしょうか？ 楽しく踊っていたダンサー達の惜しめない拍手に、バーバラ他クラスメートは全員感激でした。

通訳を依頼されたのですが、ゆっくり話すことで皆さん理解できたようでした

ビックリー ガックリー ワックワック

ギター海老沢信一

いつもはマンドリンクラブでギター・マンドリンを弾いています。茨城県内5サークルに関わり活動しています。最近バロック音楽が好きになりそのノリで今回参加することになりました。

今はBookの楽譜をパソコンで演奏させてCDにして楽しんでいます。

1. 楽譜

楽譜は長調・短調 関係なく3～4曲つないで1曲としている。そのつながりは1 2 3 4 2 3 4 1 (1は3 2呼間1回の踊り) 最初と最後は同じメロディーで終わることになる。3カップルロングウェイの時は中のどれかを消してえんそうする。文頭に長調・短調 関係なくと書いたが明るい感じと暗い感じを組み合わせると1曲とするのも演出の1つと理解しました。

2. 演奏テクニック

リズムはスコティッシュを踊っているので大丈夫、身体のリズムに乗せてメロディーを休みなく最後まで 弾きつづけること。私は音符を見たら音にしていく初見派です。4-8小節メロディーを覚えて演奏するのは苦手です。時間もかかるし、弾かないと忘れる。各楽器によって指使いは決まりがあるので、その指使いでいかに早く正確に弾くかが問題です。弦楽器の場合左指で押さえると同時に弾く、離すときは他の指で他を押さえると同時に元の指を離す。楽譜にはリピート記号もあるのでキョロキョロ探しながら弾きつづけることになる。

3. 楽器・その他

ピアノの楽譜はギターではひきづらい、フィドルの楽譜はフィドルで弾きやすいように、それぞれアレンジしてもいいのでしょうか？聞きそびれてしまいました。アの音をはっきり、1拍目をストロングに。

普通の音楽では滅多にないスコティッシュの音楽なので苦労しました。最初と最後のジャーンはタイミングさえ良ければアバウトでよいと理解しました。スピードを暗示しているのでしょうか？誰か教えてください。

4. アンサンブルとして夢のような話

毎年のミュージックコース。

ピアノはそのまま、フィドルとリコーダーはユニゾン・和音進行で第1・2パートに分けて、コントラバス・アコーディオン・ドラムもぜひご参加下さいと要項に書く。

私はバロック音楽派なのでギター又はリュートとヴァイオリン又はリコーダーのアンサンブルでと考えています。

スコティッシュカントリーダンス音楽を全く演奏したことがない私ですがあえてこれから演奏してみたい方のために書きました。

2日間ビックリー ガックリー ワックワックと楽しいコースでした。最後に役員の皆様にはお世話になりました。ありがとうございました。

音響機器について

海老沢 信一

気楽な気持ちで機材係りを引き受けました。雑学として読んでくだされば幸いです。踊りも楽器も電気も好きなので、これからもよろしく願いいたします。

音響設備に必要な機器

1. マイク

ボーカル用・・・人の声を優先して音を拾う。音域の範囲も狭く設定されている、横からの雑音が入りづらく設定されている。

ミュージック用・・・高い音から低い音までカバーする。広い範囲から音を取り込むことが出来る。

※それぞれ特性を理解して使い分けるのがベストです。

他にコンデンサーマイクなどピンキリで性能は値段で決まる。

2. プリアンプとパワーアンプ

プリアンプ・・・別名コントロールアンプとも言う通り、CDやカセットデッキなどの外部機器を選択して、音質や音量を決めて、設定された音をパワーアンプに送る。

パワーアンプ・・・プリアンプの音を100～200倍にしてスピーカーに送り音になって人の耳に入る。

※パワーアンプの出力100Wと書いてあった場合、最大100ボルトがスピーカーに流れることとなり、最大入力50Wまでのスピーカーは壊れてしまいます。(スピーカーの項目参照)

3. スピーカー

- ・マイクと同じ原理で音を出す。高音用 中音用 低音用フルレンジ用など用途によって使い分けるが、メーカーで設定済みの普通のスピーカーを使います。問題は耐圧入力、30W 50W 100Wなどと書いてある ボルトに読み替えてこれ以上高い電流を流すと壊れます。
- ・スピーカーのコードは同じ長さのものを使うこと、電線も抵抗の一種ですので左右のスピーカーの音量がずれてしまう。

音響の必要性と設定

1. 人の耳は向き合う人の声を聞きやすくする構造になっている。背後からの音は聞きづらいのでスピーカーは2本必要でサークルの場合対角線に設置する。
2. マイクを使わない人が居るが、聞く人は声の方へ顔を向けないと聞き取りづらいことになる。本人はマイクを持ちたくなくても聞く人の為にマイクを使って欲しいと思います。

マイクの持ち方はマイクスタンドに付いてる角度で手に持つのがベスト。口に近づけて、「さしすせそ」をはっきりとマイクの先端に向かって、ローソクの炎がゆらぐ程度にソフトに発声、などと先輩に聞きました

3. 楽器のマイクについて

ヴァイオリンはマイクでスピーカーから、キーボードは付属のスピーカーから、ばらばらの状態で音が出ると感じが悪い、対策としてスピーカーをキーボードの近くに置く、又はキーボードの音をマイクで拾ってミキシングする。

バランスの良い音楽を何処に立っていても聞こえるように設定したいものです。

4. その他

- ・マイクとスピーカーの距離を離すこと。

ブランチでは Weekend Camp 2008 の音響について海老沢氏へ依頼したところ、機材もすべて提供していただきました。

素晴らしいボランティアに感謝いたします。

SCD 国際フェスティバル（箱根）（トム鳥山）

SCD は国際的な活動であり、SCD ダンサーはみなファミリーであるという認識がソサエティ設立当時から一貫してなされている。近年セント・アンドルーズのサマースクールに大勢の日本人ダンサーが参加するようになった。サマースクールにいちどでも参加すれば、「SCD ダンサーはみなファミリー」が実感できるが、スコットランドはいまでも遠く、飛行機・列車を乗り継いでどうやってセント・アンドルーズに行くのか、ホテルの予約はどうするのか（いちど経験すればどきどきすることはないのだが）とか、外国語のなかですごくということもあって、行きたくても行けないという会員が多い。また、日本流のクラス、ダンス会、ボールにひたり続けることにより、世界の他の地域でもおなじ流儀でそのようなイベントがひらかれている、と考える人もいる。

4月4日 - 6日、桜はまだつぼみの箱根花月園でひらかれた SCD 国際フェスティバルは、国際的なファミリー、国際的なやり方のクラスとボールが体験できる絶好の機会であった。しかも音楽はミュリアル・ジョンストンとキース・スミスといういま世界最高の音楽性と人気を有するミュージシャンである。ミシュランの評価になぞらえれば3ツ星のイベントであった。

スコットランド、イングランド、フランス、ハンガリー、その他世界各地からやってきた48人の外国人と170人の日本人ダンサーは、箱根の3日間を十分に楽しんだ。クラスはテクニックとソーシャルに分れていたが、ダンス内容はほぼ同じであり、両クラスにほとんど差はなかった。いまは演奏活動に集中しているが、ミュリアルは公認ティーチャー、ダンサー、ディバイザーであり、「ミュリアルが教えるの？」という懸念は、クラス開始の3分で霧消した。ミュリアルはその踊りをきちんと把握しており（あたりまえだが、そうでないティーチャーもいる）、指導ポイントの指摘は的確、全員が納得できるまでパターンを繰り返さず（そのフォーメーションについてうろ覚えのダンサーにはきつかったか？）ことで、ティーチャーとしての実力を明確に披露した。ビル・ゾーブルはといえば、ユーモアたっぷりのことばとゼスチュアでクラスを魅了した。ビッグ・ステップで動くべきところでは「p シュー！」、ダンサーにアイ・コンタクトが欠けているとみれば両目に手をかけて「ピン！」、指導で間違えたときは自分の腕をぴしゃり！ Highland Schottische Poussette でデモしたとき、ビルが無意識に示した Setting Step のリフトの足の位置は、経験の深さを物語っていた。Red House, Argyll' s Fancy, Holyrood House, Joe McDiarmid' s Jig などソサエティのダンスもあったが、両名が指導したのは S. S. Johnstone, Ruby Hornpipe, Engine Room などの非ソサエティ・ダンスが多かった。

第1日夜はケイリ。RSCDS サマースクール流のお国自慢、かくし芸大会かと思ったが、実際にはダンシングが主体だった。パリ、シャルダン・デコッセ・グループの首領、パトリック・シャモワが Highland Fling を披露したが、ほんらい

の実力の5割にセーブしていた。

第2日夜はボールで、よく知られた踊りを18ダンス、第1日とおなじく、MCビル、音楽 キース&ミュリアルで楽しんだ。そのダンスが終わると、日本人ダンサーは素晴らしい音楽に拍手するのだが、ビルはダンシングのアンコールと解釈し、クイック・タイム・ダンスでは途中からすべてアンコールつきとなった。したがって、7時半から始まったボール、終了は0時を過ぎていた。

ボールに最適な広さのサブ・アリーナは箱根町立で、使えるのは9時まで、ケイリ、ボールとも花月園の2室（もともと食堂）を使わざるをえなかった。230人のボールにしてはいささか狭く、ひところのヤンガーホール以上の混み具合であった。フェスティバルで貸切り状態となったため、ホテルは昼間のサービス要員を削減し、休憩時にコーヒーのサービスはなく、外国人にはちょっと気の毒だった。参加条件は「経験3年以上」であるが、個人差があり、John of Bon Accord, Gothenburg's Welcome では「大混乱」のセットが見受けられ、「事前勉強しなかったのかねえ」という感じを抱かせた。

こまかな要最善点はあるものの、国際ファミリーという実感、世界流儀によるクラスとボール、素晴らしい音楽を味わうことができた3日間であった。ボール会場に遺作の横断幕が掲げられていたが、生前このフェスティバルの実現を最大の願望の一つにしていた前チェアマン、大井富佐子さんの不在が残念でならなかった。

SCD 国際交流フェスティバル

ビル&篤子 クレメント

この度は、上記イベント開催に当たり、ご協力頂きありがとうございました。

お陰さまで、Miss Milligan がおっしゃっていましたインターナショナル・ファミリーが日本で実現できたと思っております。

なかなか海外に出る事のできない方に、日本に居ながらにして、SCD の国際性、社交性、思いやりと友好を感じて頂けたかと存じます。

そして何よりも、音楽の重要性、音楽という目に見えないものを、目に見えるようにするのが、踊りですが、単にそれだけではなく、一緒に踊る方々との協和と思いやりのある柔軟性が社交につながるという事を実感して頂けたのではないかと願って止みません。

特に箱根では、ケイリー、ボール、ダンス(パーティ)・・・と、違った様式でお楽しみいただきました。SCD を踊るのには、広い場所で、ちゃんとしたステップができなければ・・・、踊りを知らなければ踊れない・・・と思いでい

る方もあったかと思えます。

しかし、ケイリーは、大体が個人の家や村のホールなどに集まり、自然にパーティとなっていくものでしたので、和気藹々とした雰囲気が始まったものですし、ボールは、イブニングドレスに身を包み、優雅な一夜を送る・・・社交のための会で、従って複雑な踊りよりはよく知られているポピュラーな踊りを主とし、踊りの順番に悩まなくていいようなプログラムで、社交を楽しみます。

スコットランドではかつてボールのときに、イブニングシューズを履くのが当たり前でした (RSCDS 以外では今でもそうです)。ミス・ミリガンになぜその事を皆に言わないのか・・・？ とクレメントが言ったら、一週間口をきいてくれなかったそうです。

では何故、テクニックを学ぶのか・・・？ テクニックというのはご存知のようにステップだけのことではありません。手の取り方、フレージング、チームワークなどの知識があれば、臨機応変に、その場のニーズに従った判断が即座にでき、もっと楽しみの深さが増しますし、お互いの社交がスムーズに運びます。イブニングシューズで踊るのには、それに相応しいようにステップや踊り方を対応させる必要がありますし、そうすれば広い会場でなくても構わない事になります。(今回に限れば、他に体育館にはピアノがない、9時までしか使用できない、飲食禁止・・・などの理由もありましたが、それ以上に、違った環境と場を提供したかったので、ケイリーとボールはホテルで行いました。)

今回、海外から参加された方の中には、ティーチャーの資格を持っている方も多数いらっしゃいましたし、デモンストレーションに出られる方々、または過去にデモをしていた方々もたくさんいらっしゃいました。反面、まだ始めて間もない方や、長い経験を持っていてもそれ程のレベルではない方、85歳の年配者、全く耳の聞こえない方、医者や弁護士、大学教授・・・等、本当にいろいろな参加者が、9カ国から集まりました。

SCDの良さは、そういった個々の領域を超えて、お互いが一個人として協力し合いながら、一つの踊りを完成していく事にあります。経験のある方は、踊りを知らない方をうまくリードしてくれます。踊りを知らなくても、他のダンサーを見ていれば、行く方向が分かります。他力本願ではなく、個々が自分のできる事を出し合っこそ、うまくいくものですし、楽しさも倍増するものです。

戦後、池間博之氏、原田裕氏、宮川清彦氏、松橋順子さん、岡田昌子さん等、たくさんの方々のご努力が実り、今ではSCDがとても盛んに踊られるようにな

りました。これから更にその楽しさを多くの方々に知って頂くには、私たちの働きいかんだと思います。今回のこのイベントが、その一つの動力となってくれたら・・・これほど嬉しい事はありません。

海外からの参加者には、日本の方々の親切と友好に感激した・・・と、日本ファンになっていただけました。たくさんの方が友好を深めて下さったと思います。きっと近い将来、どこかのダンスフロアで再会が繰り広げられる事でしょう。

今回のイベントを行うに当たり、本当にたくさんの方々からのご協力を頂きましたことを、改めて心より感謝いたします。

運営委員会報告

2008年2月2日第9回運営委員会

- (1) New Year Dance 2008 の反省
会場その他について
- (2) Weekend 2008
ミュージッククラスで使用する楽譜の配布、成田への講師の出迎えと見送り、委員の役割分担、委員の配置、オークション・CD の販売方法、講習曲の資料配布、音響機材等
- (3) Weekend 2009
日程と会場の検討
- (4) Social Dancing Class
3月29日 講師の候補について
- (5) ビギナークラス会場変更について
クラスは継続が大切なので確実に予約できる神田の会場を引き

続き使用

- (6) 次期役員について
次回までに個人的に交渉
- (7) 2008年度会費
本部会費¥3,700+ブランチ会費¥2,500 計¥6,200 はがき代なし
- (8) ブランチクラスについて
クラス担当ティーチャー募集 2月のクラスのお知らせと一緒に送る。
ブランチクラスで取り上げるダンスについて--RSCDS のダンス中心にしてはどうか募集時に再認識してもらおう
- (7) ブランチ賞推薦状況
本部に推薦済み
- (8) マガジン No. 5 レターNo. 78 の発送、ショップ申込締切り日について

2008年3月1日第10回運営委員会

- (1) Weekend2008 の反省
会場の案内、掲示板、全体の進行、アンケート、締切り後のキャンセル、MC・通訳の確認、音響関係その他お手伝いされた方々へのお礼、ステップダンスクラス その他
- (2) Weekend 2009
会場の仮予約、日時、募集人数、講師、費用、スケジュールの

検討

- (3) Social Dancing Class 3月29日の講師依頼
- (4) ブランチクラス指導担当アンケート集計結果
- (5) 次期役員
引き続き交渉

- (6) 2008年度会員登録
クラスのお知らせと共に送付
- (7) マガジン No. 5
クラスのお知らせと共に送付予定
- (8) 会計について
ショップ・クラスは3月末で締めてトビヤに連絡。4月の委員会で明細を報告
- (9) 総会後のソーシャルダンスの会場について

2008年4月12日 第11回運営委員会

- (1) 2008年度総会について
日時 2008年6月7日 13:30-集合13:00
場所 大久保地域センター 3F A会議室
役割分担 司会、議長、書記、受付
5月の委員会に総会資料原稿を用意
5月3日 会計監査を受ける
- (2) 総会後の Social Dance について
童夢館の予約日— 4月25日
MC、受付、壁プロ
参加費¥600 総会出席者は無料
総会案内とダンスプログラムを5月中旬発送予定のブランチレターと6月のクラスのおしらせに載せる
- (3) Weekend 2009
日程 2009年3月20日(金) -22日(日)
講師 鳥山チェアマン交渉中 日本の観光を含めて招待(京都・奈良)
会場 花月園・レイクアリーナ
記念品について
- (4) 次期役員依頼状況
- (5) 2008年度会員登録について
4月12日現在 346名

- (6) ブランチクラス
 5月アドバンスクラス 童夢館
 インターミディエイト・ビギナーズクラス 神田6月まで予約
 済み
- (7) 本部関係
 鳥山チェアマンのスクロール本部に申請済み
- (8) 日本語版マガジンNo. 5の完成予定
 マガジンNo. 6 埼玉ブランチ取りまとめ
- (9) その他
 次回レター合宿の感想・CD紹介等掲載予定
 次回の三ブランチ合同ミーティング 7月27日(日)

クラスで取り上げたダンス (2008年2月～4月)

アドバンス・クラス

08年2月2日(土) 担 当 五十嵐 成 子 Pianist 村 上 美 枝 子

1	The Dundee Whaler	S 32 - 4C
2	The Radyr Dancers	S 32 - 3C
3	Royal Albert Country Dance	R 32 - 2C
4	Miss Murray of Lintorose	R 32 - 3C
5	Nineteenth of December	J 32 - 2C

08年3月1日(土) 担 当 林 浩 子 Pianist 市 川 洋 子

1	Peticoat Tails	J 32 - 3C
2	The Black Barony	R 32 - 3C
3	The Fickle Lass	S 32 - 4C
4	Tara Coo	R 32 - 5C
5	Eastwood Park Strathspey	S 32 - 4C

ソシアルダンス・クラス

08年3月29日(土) 担 当 長 峯 真 弓

1	Scottish Reform	J 32 - 2C
2	Scotch Broth	R 32 - 4C
3	Sand of Morar	S 32 - 3C

4	Hooper's Jig	J 32 - 3C
5	Broadford Bay	R 32 - 3C
6	The Rubber Duck's Jig	J 32 - 5C
7	It's Wisnae Me	S 32 - 4C
8	Ian Powrie's Farewell to Auchterarder	J 128 - 4C

インターミディエイト・クラス

08年2月4日(月)担当 佐藤仁美

1	Leap Year	J 24 - 2C
2	Springtime Reel	R 32 - 3C
3	Reel Friends	R 32 - 3C
4	Crossing the Bay	S 32 - 3C

08年3月3日(月)担当 長峯真弓

1	Lady Home's Jig	J 32 - 3C
2	Lady Susan Stewart's Reel	R 32 - 3C
3	Lady Susan Stewart's Strathspey	S 32 - 3C
4	A Spring Breeze	S 32 - 4C

08年4月7日(月)担当 鳥山豊喜

1	Two to One	J 32 - 3C
2	Madge Wildfire's Strathspey	S 32 - 3C
3	Lady Harriet Hope's Reel	R 32 - 3C
4	Dainty Davie	S 16 - 3C
5	Well Met in Paris	H 32 - 3C

ビギナーズ・クラス

08年2月11日(月)担当 境雅子・西森典子

1	Balmoral Strathspey	S 32 - 4C
2	Ha! Ha! The Woin' O It	R 32 - 2C
3	Lady Lusy Ramsay	S 32 - 3C

08年2月25日(月)

1	The Storie Miller	S 32 - 3C
2	Blue Bonnets	J 32 - 2C
3	My Mother's Coming in	R 32 - 3C

08年3月10日(月)

1	Balquidder Strathspey	S 32 - 3C
2	Lord Macdonald's Reel	R 32 - 3C
3	Rothesay Rant	J 32 - 4C/sq

08年3月24日(月)

1	Culla Bay	S 32 - 4C/sq
2	Maxwell's Rant	R 32 - 3C
3	Mrs Stewart's Jig	J 32 - 3C

08年4月14日(月)

1	EH3 7AF	J 32 - 3C
2	Mrs MacLeod	R 32 - 3C
3	Miss Gibson's Strathspey	S 32 - 3C

08年4月28日(月)

1	Festival Interceltique	R 40 - RR
2	It's Fun to Dance	J 32 - 3C
3	Sandy O'er the Lea	S 32 - 2C
4	Maxwell's Rant	R 32 - 3C
5	EH3 7AF	J 32 - 3C
6	Sugar Candie	S 32 - 3C
7	Flowers of Edinburgh	R 32 - 3C

- ビギナーズ・クラスは6ヶ月間指導担当者変わりません
- 最終会は総復習でパーティ形式でした

ブランチクラス指導担当予定者
2008年5月～10月

	Advanced Class (第1土曜日) 18:20~20:45 指導	Intermediate Class (第1月曜日) 13:30~16:00 指導	Beginners Class (第2&第4月曜日) 13:30~16:30 指導
5月	鳥山豊喜	五十嵐成子	小山かおる・神倉那智子
6月	Social Dancing	神倉那智子	〃
7月	若松陽子	掛川純子	〃
8月	近藤幸子	佐藤仁美	〃
9月	小山かおる	佐藤仁美	〃
10月	小幡正明	渡辺悦子	〃

新CD・ブック紹介 (トム鳥山)

小幡正明コレクション

- (1) **Drive the Hot Summer Away** Yonder Green など全12ダンス
- (2) **Today's Hot Fish** Nihon Sakurasou など全12ダンス
- (3) **Dancing Confetti** Mrs. Kondô's Strathspey など全12ダンス
- (4) **Heads I Win, Tails You Lose** A Pub Crawl など全12ダンス

小幡正明氏がいままでに作ったダンスの数々が4分冊にまとめられ、小幡氏自身の手によって出版された。古くは1978年から新しくは2007年のものまで、国内の各グループや各ダンサーに献呈したダンスなどを含み、いままとめておかなければ散逸・忘却のおそれがあると判断されたのであろう。

小幡氏は1967年、学生時代にスコティッシュ・カントリー・ダンシングをスタートし、池間博之氏のクラスや転勤地の北九州で故原田裕氏のクラスに参加して技量を磨くとともに、1978年ごろからダンスを創作しはじめた。ヒュー・フォスのあとをついだスコティッシュ・ダンス・アーカイブスに送ったダンスが評価され、世界のダンス考案者にオバタの名を知らしめることになった。

ダンスはそれぞれ小幡氏特有のひとひねりしたフォーメーション、フィギュアが含まれ、どれを踊っても感心するダンスばかりである。各説明文末尾の「Devised for 00000」の‘00000’に知っている人、グループ、記念名を見るのも楽しい。各分冊の最終ページには題名についての解説があり、たとえばYonder Greenとは「向うの緑地」という意味、というように日本人に親切にできている。全ダンスにオリジナル・チューンの指定があり、音楽にくわしい小幡氏の面目を示すものである。製本もしっかりしている。〔注文略号：小幡コレクション・セット(4分冊一括)〕

The Sixth Carnforth Collection of Scottish Country Dances

Balmaha (32S, 3C), Ceilidh Night (32J, 7C), Diane's Dilemma (32R, 2C), The Golden Celebrating Jig (32J, 4C), Jennifer's Itchy Fingers (32R, 3C), A Jig for Garry (32J, 3C), Just Around the Corner (32S, 3C), Looking for a Partner (32J, RTR), The Paisley Weavers (32S, 3S), The Started Rabbits (32R, 5C), Welcome to Higham Hall (32R, RTR)

前号のブランチレターで、モーリーン・ヘインズは Carnforth Collection Vol.6 をことし中に発行したい意向、とのべたが、思いのほか早く出版された。故ディレク・ヘインズ作の 2 カップルから、3、4、5、7 カップルのダンス、ならびに Round the room のダンスを収録しており、バラエティに富んでいる。小幡氏のダンスにくらべれば、半ひねりといったダンスばかりであるが、インターミディエイト・ダンサーにも十分楽しめる内容である。難読語をカナで書くと、Balmaha バルマハー、Diane's Dilemma ダイアーズ・ディレマ (ジレンマでない)、Higham ハイアムとなる。

[注文略号：カーンフォース・ブック Vol. 6]

Silver Tassie (SSCD20) by Kieth Smith and Muriel Johnstone

The De'il amang the Tailors (8x32R), The Silver Tassie (8x32S), The Deuks Dang O'er my Daddie (8x40J), John of Bon Accord (8x32R), Sauchie Haugh (8x32S), Ladies' Fancy (8x32J), None so Pretty (8x40R), Miss Ogilvie's Fancy (8x32S), Holyrood House / Argyll's Fancy (4x48J), The Dancing Years (1x88R), Jean Martin of Aberdeen (3x32S), Reel of the Royal Scots (8x32R)

Todlen Hame (SSCD21) by Kieth Smith and Muriel Johnstone

Todlen Hame (6x32J), Sugar Candie (8x32S), The Dancing Bees (8x32R), Light and Airy (8x32J), Well Kent (3x32J), Red House (8x40R), A Wisp of Thistle (8x32S), The Engine Room (8x32R), Blue Bonnets (8x32J), The Barmkin (1x88R), Minister on the Loch (3x32S), Fight about the Fireside (8x32R)

この 2 種類の CD は 4 月の箱根における SCD 国際フェスティバルで販売されたものである。同フェスティバルに参加できなかった会員に、あらためてご案内する。当代超一流のミュージシャンによる演奏であり、流麗の一語につきる。演奏時間はいつものとおり長め。8 x 32R で 4 分 50 秒、8 x 32S で 8 分 45 秒である。2 種の CD を一気に聞くと、いささかくたびれる。クラスで使うのに適している。

2, 3 疑問点があったのでキースに聞いてみた。

「演奏時間の表記がないのはなぜ？」

「必要ないと思ったからさ」

「Todlen Hame は 6x32 だけれど、なぜ 8x32 にしなかったの？」

「ええー！ あのダンス、2 カップル・ダンスじゃなかったっけ？」これは 2 人のカン違いであろう。

「Red House は 2 つのチューンしか使っていないけれど、なぜ？」

「オリジナル自体すばらしい曲なんだ。もう 1 つの曲といっしょに編曲して、あたかもみな別のチューンであるかのように仕上げています。聞いて、そして楽しんでくれ」
〔注文略号：シルバー・タッシー CD、トドルン・ヘイム CD〕

Aye Afloat (SSCD19) by Kieth Smith and Muriel Johnstone - CD

Aye Afloat devised by Margaret Zadoworny - Book

The Moray Firth Hornpipe (8x32R), The Port-No-Quay Jig (4x40J), Aye Afloat (4x48S), The Haid O' the Brae (3x32J), The Port Hill Medley (48S+48R), The Sheltered Cove (8x32S), The Cadger's Roadie (8x32J), The Flagstaff and Cairn (4x40S), The Three Creeks Shore (8x32J), The Bow Fiddle Shore (32S+32R+32S), The Whale's Moo (8x32R), Jenny's Well (3x32S)

Aye をアイと発音するとイエスの意味、イーなら「いつも」の意味とある。Afloat は、ただよう、浮いているであるから、後者が合っている。Aye Afloat は、ポートノッキーという町のコットー、マリ湾に面した町で 19 世紀にはニシン漁で繁忙したとダンス・ブックにある。ダンス・ブックはこの町出身でいまはカナダに住んでいるマーガレット・ザドウォーニーが年少期をしのび、町の光景にちなむ自作 12 ダンスをまとめたものである。各ページに題名（地名ばかりである）を補足する図版があり、末尾にはダイアグラムが付記されている。踊りのフローは現在の RSCDS フォーメーションを組み合わせたもので、はっとさせるようなところはないが、うっかりぼんやりできないダンスが多い。

オリジナル・チューン（ブックにすべて譜面あり）はすべてミュリアル・ジョンストンが作曲した。いやオリジナルだけでなく、代替曲も含め全曲ミュリアルの作品で、こういう CD もめずらしい。もちろんぜんぶ書き下ろしではなく、すでに録音されている曲の再演もある。ストラススペイはエアばかりである。CD のみ箱根の SCD 国際フェスティバルで販売された。

〔注文略号：イー・アフロート CD、イー・アフロート・ブック〕

以上の商品のご注文は……… 郵便振替 00240 - 0 - 63517 東京ブランチ

小幡コレクション・セット	¥1,200
カーンフォース・ブック Vol.6	¥700
シルバー・タッシー CD	¥2,700
トドルン・ヘイム CD	¥2,700
イー・アフロート CD	¥2,700
イー・アフロート・ブック	¥2,000

締切り 6月6日（金）

お渡し予定 7月初 担当 荒井千文 T/F 049-247-5468

グループ案内

☆ 能代ウィンズ “2008”

日 時 2008年6月8日(日) 10:00~15:00
会 場 能代山本広域交流センター ・多目的ホール
問い合わせ先 大塚昭子 Tel 0185-52-2760

☆ 岐阜SCDC Summer Ball 2008

日 時 2008年7月6日(日) 11:00~17:00
会 場 岐阜グランドホテル
問い合わせ先 渡部秀樹 Tel 0587-55-2423

☆ 大和SCDC 22周年サマーボール

日 時 2008年7月20日(日) 11:00~18:00
会 場 茅ヶ崎コミュニティホール(市庁舎分館)
申込み締切 7月6日(定員になり次第締め切ります)
問い合わせ先 梶野幸雄 Tel 0466-44-3537

☆ 関西ホワイトヘザーダンサーズ 21周年記念パーティー

日 時 2008年10月11日(土)~12日(日)
会 場 ユニトピアささやま(兵庫県篠山市)
申込み締切 7月31日(定員100名)
問い合わせ先 大田快人 Tel 0798-41-1044

原稿募集

- 1、ダンスに関する事
- 2、グループの活動
- 3、その他